

令和6年度 第2回苫小牧市男女平等参画審議会会議録（概要）

- 1 日 時 令和7年1月28日(火) 18時00分～19時26分
- 2 場 所 苫小牧市民活動センター4階 講習室A
- 3 出席者 審議会委員 9名
男女平等参画推進センター長
総合政策部協働・男女平等参画室
(総合政策部長、室長、主幹、主査、主事 計5名)
- 4 傍聴人 1名
- 5 記 者 2名
- 6 会議次第
(1) 開会 (2) 苫小牧市男女平等参画都市宣言文唱和
(3) 議事 (4) その他 (5) 閉会
- 7 議事概要

(議題1)「パートナーシップ制度」の改正について

事務局より、資料1、2について説明。

【委員】

パートナーシップ制度の改正にあたって、宣誓者や宣誓を考えている方等から意見はあったのか。

【事務局】

意見は直接届いていない。宣誓者が少しでも利用しやすくするために市ができることを検討した中で、今回の改正に至った。

【委員】

男女共用更衣室や共用トイレは、苫小牧市民文化ホールや市の関連施設にも整備されているのか。

【事務局】

男女共用に関する施設整備を市で実施する場合、まずは相談というスキームを作っている。法律の中での実施や国からの補助等の関係で可不可はあるが、市民ホール建設準備室と協議してトイレの検討を進めている。更衣室は具体的には話が進んでいない。

【委員】

結婚休暇やダイバーシティ休暇の新設は苫小牧市職員に対しての取組であって、PRIDE 指標の認定企業がこのような取組を率先に行っているということではないのか。

【事務局】

PRIDE 指標の中に休暇に関する項目があるが、取組は必須でないため実施している企業としていない企業があると思う。ただ、苫小牧市では実施している。

(議題2) 男女平等参画の取組について

事務局より、資料3について説明。

【委員】

男女平等参画を推進する市民会議時代に開催した「自分らしさ応援 EXPO」が非常に良かった。男女平等参画を推進する市民会議は市長とジェンダーミーティングと名称を変えて現在も続けてきており、再びそのようなイベントを開催するのはどうか。毎年は大変なので、定期的に大きな周知を行うのがいいと思う。

【事務局】

市長とジェンダーミーティングは、参加者が手法や今後についての方針を決めて現在に至っているので、今後どのようなことができるかとの話になったときにイベントも含めて検討する。効果的な取組という意味では、苫小牧市男女平等参画都市宣言の周年イベントとして実施も考えている。

【委員】

男女平等参画推進センター主催の防災研修に参加した。地域の防災活動はほとんどが男性であることや、研修に参加した男性が講師の話を聞いて初めて知る様子もあったことから、少しずつ意識を変えていく必要性を感じた。防災を通して、男女平等の考え方が根付いていくような土壌作りを行っていただきたい。また、苫小牧市は企業が多く、未だに企業の古い体質が残っていると聞く。そういうところの意識改革を積極的に市が働きかけていただきたい。

【事務局】

防災という切り口から話すとき、平常時の課題は非常時になるとさらに大きな課題になるというところで、男女平等部分についての意識につながったと感じている。

企業への意識改革について、企業によってさまざまな課題がある中でどのようなことができるかというのは、市長とジェンダーミーティングで企業の方に講演していただくことや市内企業の方が各企業の課題を話し合える場となっているため、今後とも継続していきたいと考えている。

【委員】

新市長となり、公約で子どもど真ん中のまちを掲げていたが、苫小牧市男女平等参画基本計画に子どもの内容を盛り込んでほしい。

【事務局】

新市長の公約には男女共同参画社会の推進もあり、今までの歩みを止めずにこれからも継続する方向性で皆様の御協力を仰ぎたい。子どもど真ん中のまちは、男女平等参画基本計画にも一部子どもの取組について盛り込んでいるほか、既存で子ども・子育ての計画がある。その計画と男女平等の取組の連携を検討していきたい。

【委員】

PRIDE 指標の認定は、一度認定されると永久なのか。

【事務局】

認定の枠は決まっておらず、条件を満たしたところが受賞される。毎年認定になるため、申請をするとその年の認定が受けられるという仕組み。今回の認定を契機に取組を加速していきたいと考えており、可能であれば市内企業にも申請、受賞していただきたいと思っている。

【委員】

生きづらさを抱えている男性の相談先がないとの相談を受けた。そのようなことに対しての相談や対応についてどのように考えているのか。

【事務局】

男女平等参画推進センターで、昨年11月から市民活動センター5階のエレベーターホールを一つの居場所ということで、24歳以下を対象とした相談につながる居場所づくりを月に1回実施している。

【委員】

父子家庭等、生活困難な男性がいる現状で、当審議会の中でそのような男性に向けた支援を考えられているのか。

【事務局】

第9回市長とジェンダーミーティングで女性の健康課題をテーマとしたが、男性の健康課題も知りたいという意見もある。そういったお互いに理解しあえる場をつくるのが男女平等の言葉に繋がっていくと感じているため、男性に向けたものについても検討していきたい。

4 その他

事務局よりアンケートの依頼

全体を通して委員からの感想

【委員 1】

防災の点で、私は町内会の防災部に所属しているが、地域単位ごとで取組の周知や研修会は必要と感じている。また、防災の研修について今回はターゲット層を幅広く実施されたかと思うが、企業、町内会等ターゲットを絞ったほうが伝えたいことが明確にできるので、それぞれに合わせた開催計画を練るほうが成果が上がるのではないかと感じた。

【委員 2】

初めて審議会委員となり、知識が深まった。審議会がきっかけで知識が増えたことで、困っている方への案内ができるようになったほか、市の考えや市内の相談先を知ることができ、とてもいい経験になった。

【委員 3】

自分自身、バイアスがかかっていたことが多々あった。その中で市の取組を自分に置き換えてできるか等、色々と考えながら様々な角度で見させていただいた。市民に伝えることが大事なので、講演や市長とジェンダーミーティング等、さらに広く周知したほうがいいと感じた。

【委員 4】

男女平等参画に対して様々な形で取り組んでいただき、女性を支援する団体としては嬉しく思う。高齢の男女や若者への啓発活動に力を入れていきたい。誰もが生きやすい苦小牧市ということで、良いまちづくりを団体と市が手を携えて作っていったらと思う。

【委員 5】

元々、男性だけでも生きづらさを抱えるものがあり、審議会に参加した。その中で、やはり周知や自ら知っていくことは大事だと毎回感じている。食らいつくのに必死な内容が多かったというところで、今後も自分でも知り、周知を行っていきたい。

【委員 6】

男女平等は生活に関わる問題で、お互いに助け合える環境が大切。そういう環境で育った子は社会や組織の中でも誰かを思いやれると思う。ぜひ男女平等参画基本計画が性別だけでなく幅広いところに目を向け、私たちの生活が豊かになり、その中で子どもたちが育っていくような計画にしていきたい。

【委員 7】

男女平等参画の取組については、ノーマライゼーションの考え方に近いと思う。これらは時間がかかるもので、地道に取り組んでいくことが必要。過去の自分の経験から、様々な人達が自然に目に入るようになった時に、初めて違和感なく色々な人がいると理解できると思うので、時間はかかるが様々な取組の中で参加の継続を見せていくことは必要と感じる。

【委員 8】

最初に審議会に参加した時は根があって幹があるイメージだったが、今ではそれに小さな枝や葉っぱ、実ができているようで、皆さんの意気込みがとても素晴らしいと感じている。私が感じるのは、ジェンダーバイアスは何についても根にあることから、小さいうちからそれがないような教育をしていくことが一番大事。

【委員 9】

今まで知らなかったことが知れるようになり、自分にとっては良かった。ただ、自分なりに知る機会を持とうと思っていても、知ることに限界があり、取組等を聞くとまだまだ知らないことがあるといつも思う。これからもアンテナを張っていき、審議会だけでなく、機会があれば関わっていきたいと思う。